

第1B（中）分科会 —教育課程に関する課題—

提案主題 確かな学力を育むための教育課程の工夫・改善
～P D C Aサイクルの視点から～

司会者	杵築市立山香中学校	今 富 雄 三
提言者	杵築市立宗近中学校	高 橋 澄 哉
助言者	人権・同和教育課主幹	永 井 弘
記録者	杵築市立杵築中学校	清 松 敏 秀

1 協議の柱

確かな学力を育むための教育課程の工夫・改善に向け、教頭の関わりはどうあればよいか。

2 協議の実際（内容）

(1) 教育課程の工夫

- ・教育課程を使いやすいように工夫していて素晴らしいが、1時間の評価規準が多い。1つあればよいのでは。
- ・教育課程は詳しくすると量が膨大になり、省略しすぎると役に立たない。指導計画を1時間ごとに分けていると、学期ごとに進度の修正がしやすい。

(2) 授業改善の工夫

- ・互見授業を通してベテランの先生の授業を若手の先生が見て、学ぶことは効果的である。ただし小学校の場合は教科担任制なので、1時間じっくり見ることができにくい。その解決策の一つとして、ビデオ取りや板書を撮影して残している。

3 指導助言

(1) 芯の通った学校組織づくりについて

- ・マトリクス型組織の長所は、必要な情報量が格段に増えることである。一方短所は、組織の命令系統が複雑になるので、混乱しやすくなることである。情報や指示を円滑に流す要としての主幹教諭の働きが重要になる。また、運営委員会の持ち方が大切になる。参加者の組み合わせがキポイントである。

(2) 教育課程編成について

- ・教育課程は、学校の心臓部であり財産である。作成しても使わなければ宝の持ち腐れである。常時朱書きで加除修正することで、次年度に生かすことができる。毎日の授業を振り返り、児童生徒の反応から短期のP D C Aに活用していくことも重要である。

(3) 学校改善について

- ・4点セットに学校評価を反映させる。そして短期にP D C Aのサイクルを繰り返すことで改善を図る。それには全教職員が組織的に活動し、問題点や改善点を共有することが必要不可欠となる。その点からもマトリクス型組織は有効である。